

# 「国民スポーツ大会」の山梨開催に向けて

このほど2032年「国民スポーツ大会」の山梨県開催が決まりました。国民スポーツ大会と言っても一般の方々には聞きなれない名前ですが、これまでの名称「国民体育大会」(略称「国体」)が本年の鹿児島県大会を最後に、来年度開催の佐賀県大会から「国民スポーツ大会」の新名称で開催されるものです。

「国民体育大会」と言えば、1986年(昭和61年)に「かいじ国体」の愛唱で開催となった本県史上最大のイベントとして記憶に残る方も多しはずです。国内の平和と戦後の再出発を目指した大会の山梨開催は第41回となり、昭和天皇がご出席された最後の国民体育大会として記憶されている人も多しようです。

かいじ国体ではメイン会場の甲府・県営小瀬スポーツ公園はじめ競技の開催地となった市町村には新たな施設が建設され現在に至っています。峡南地域では県南端の富沢、南部(男女ソフトボール)、身延(柔道)、下部(なぎなた)、中富、六郷、鵜沢(カヌー・スラローム・同ワイルドウォーター)、増穂(弓道)の合併以前の旧町で競技が行われ、地域を挙げての催しとなりました。

46年ぶり、つまり1986年と言えば、日本の「バブル景気」突入の年でもあり、県内初の国体開催の成功へ向けての熱意は凄まじく、併せて開催6年前の1980年には県人口80万人台を突破、さらにバブル崩壊を迎えた2000年9月には総人口89万5646人の

## 46年ぶりのビックイベント“がいじ国体”が混乱、急変する社会環境の中、万全の準備を

県政史上最多数を記録したのです。その余韻を受けての県政は県人口100万人を目標に掲げる時期もあったものの、本年2月には県人口80万人割れが判明するに至りました。さらに最新の県総合計画では2040年の人口は69万9千人との推定がされています。

この状況下、本年11月からは準備委員会による国民スポーツ大会の運営への検討が開始される予定です。最新の報道によると、まずは、かいじ国体で使用された施設を軸に検討することですが、その現状は、建設以来40年近く使用された各施設の老朽化も顕著で、その対応が焦点になりそうとのこと。勢い新しい施設の整備については、開催地となる市町村の負担も必要となるでしょう。

思えば各種イベント等に関する国内規模の状況を見る時、札幌市の次回冬季五輪誘致断念、再来年の「大阪万博」の開催経費の異常な高騰による開催危機、新型コロナによるパンデミック、ウクライナ戦争によるグローバルな経済危機、ハマスのイスラエル侵攻とその逆襲など、海外の出来事が直接、国内の都道府県単位の行政計画にまで難題をもたらす状況下にあるのが現在の状況です。その意味で、国民スポーツ大会へ向けての準備については、県政のチェック役でもある私たち県議会議員のみならず、県民の皆様個々の意見提供が求められるこれからの9年間となるのではないのでしょうか。県民スポーツ推進のための大会成功に思いを込めながらの適切な対応が求められています。



【山梨県議会議員】

# 望月勝

Vol.44  
2023年11月

Masaru Mochizuki  
Assembly Report

## 新型コロナ以降、頻発中の県政の諸課題へ 県議5期目、県民生活の安定に全力注入の毎日です



記録的な本年の猛暑も11月に入って、一挙に秋の気配を強めています。県民の皆様も日々の健康管理に苦心されて居られることとご推察しております。

思い起こせば、これら地球温暖化による見られる気候変動と共に、2019年末に中国で確認された新型コロナウイルスのパンデミックは既に4年近くも地球規模の混乱を招いたのみならず、この間、ウクライナ戦争の勃発は長期化する戦争による世界経済の混乱等々の影響は日本国内、さらには私たちの暮らす山梨の市町村の隅々にまで連鎖しているものと痛感しております。

この数年、本県でも温暖化、円安による諸物価の高騰、さらには教育現場における児童生徒の不登校・いじめの急増などの諸課題が浮かび上がっています。県議会5期目にある私にとってもただならぬ状況での県政への参加に緊張しております。

今期、新たに編成された「自由民主党開の国」の同志と共に、県民生活の建て直しに全力を注いでおります。

山梨県議会議員  
望月 勝

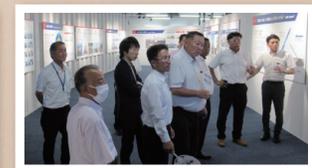
### 土木森林環境委員会県外調査

令和5年8月28日～30日 (高知県・香川県)

### Activities seen in photos



株式会社社研製作所



建設現場での無公害工法の取り組みについて  
高知県立南喜ヶ峰森林公園



流域治水プロジェクトの取り組みについて  
高松市東部下水処理場 バイオマス発電の取り組みについて



森林公園の運営管理と利活用について  
香川県庁



### 東奔西走日記 望月 勝



■ 峡南の夏祭り  
(令和5年8月19日)



■ 市川三郷富士川線 富士橋 竣工式典  
(令和5年8月20日)



■ ベトナムクアンビン省政府来県に係る  
議長主催夕食会 (令和5年9月20日)



■ 地域の医療・介護を守るための  
条例案作成委員会 ふじみ野市視察  
(令和5年10月17日)

この「望月勝議会活動レポート」に関するお問い合わせは

TEL 0556-66-2036

〒409-2102  
山梨県南巨摩郡南部町富士2643-11

指定管理施設・出資法人調査特別委員会に付託された案件の審査の経過及び結果についてご報告する。

まず、審査の結果から申し上げますと、お手元に配付の委員会報告書のとおり、「指定管理施設については、新型コロナウイルス感染症に対するこれまでの知見を踏まえたウィズコロナへのきめ細やかな対応により、利用者の満足度向上を図る運営を行うなど、いずれの施設も管理の業務及び経理の状況について、おおむね効果的、効率的な運営がなされていた。

また、出資法人については、県や国の助成事業を積極的に活用して事業を展開するなど、いずれの法人もおおむね設立の趣旨に沿って、一定の経営努力のもとに運営されていた。

委員からは、老朽化した施設の修繕等を計画的に実施すること、利用率向上に向け、指定管理者と県が一層連携して取り組む必要があること、現在4年間を基本としている指定期間のあり方について、調査研究を求める等の意見があった。

また、改革プランにより経営改善を進める出資法人が予定している、次期プラン策定に当たっては、必要な維持管理業務を確実に実行するものとすべきである等の意見があった。

県は、社会情勢の変化等にも注意を払いながら、引き続き指定管理施設及び出資法人がその目的に沿った運営を行えるよう、業務内容や経営状況等を的確に把握し、適切な指導監督に努め、より効果的かつ効率的な運営を図っていくことを求めるものとする。」と、すべきものと決定した。

次に、審査の経過から主なるものについてその概要を申し上げます。

初めに、指定管理施設の山梨県立美術館についてである。「観光客の誘客に向け、指定管理者としてどのような取り組みを行っているか。また、県と連携することで、より相乗効果が発揮されると思うが、連携した取り組みを行っているか。」とただしたのに対し、「指定管理者は、旅行商談会に参加し、旅行会社に対して美術館などを絡めたツアー企画を提案するなど、県外観光客の誘客促進を図っており、現在開催中の企画展には、3社の旅行会社がツアーを企画するなどの成果が現れている。他にも、県内宿泊者に美術館への来館を勧められるよう、県内ホテル関係者向けに招待ツアーを実施し、観光客の誘客に向けた様々な取り組みを行っている。また、指定管理者と県の連携した取り組みについては、指定管理者と美術館職員が企画展ごとに会議を行い、ターゲットに沿った広報の展開や関連イベントの開催、企画展の内容に合わせたレストランメニューの提



供などを行っている。引き続き、広報の効果が最大限発揮され、施設運営がより魅力的なものになるよう、指定管理者と連携し取り組んでいく。」との答弁があった。

次に、県出資法人の山梨県環境整備事業団についてである。「環境整備センターで施行されている第4次改革プランのこれまでの成果はどのようなものがあるか。また、経費面だけではなく、安全な対応が重要と考えるが、地元自治会にはどのような対応状況となっているのか。」とただしたのに対し、「これまでの成果としては、明野分の経常費用は平成27年度には1億9千2百万円余だったものを、人件費の削減や、設備運転方法の効率化などにより、平成28年度には1億2千6百万円余、平成29年度以降は、大規模なメンテナンスを行った令和元年度を除き、いずれも、1億円以下にするなど、コスト削減を進め、着実に成果を上げていると考えている。また、地元への対応状況としては、区長や北杜市、専門家などで構成する安全管理委員会を定期的に開催し、埋立地からの浸出水や周辺地下水の水質測定結果を報告するなど、情報共有に努めている。」との、答弁があった。

以上をもって、指定管理施設・出資法人調査特別委員長の報告とする。

調査特別委員会 現地視察



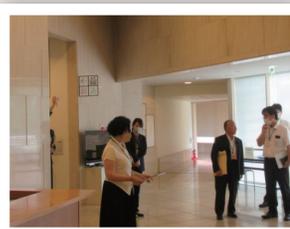
アイメッセ山梨



アイメッセ山梨



馬事振興センター



県立美術館

県有施設LED照明機器整備事業費について

**望月** CO<sub>2</sub>削減のため、北巨摩と南巨摩の合同庁舎を4期工区に分けてLED化することだが、1期工区の予算5億9千8百万円では何か所をLEDに交換できるのか。

**環境・エネルギー政策課長** 今回の補正予算で北巨摩合同庁舎、南巨摩合同庁舎など、19の施設で整備を予定している。全体では合計68の施設で順次整備を進めていく。

**望月** 68施設全部をLED化した時の電力の削減はどれくらいになるのか、これまでと比べてどのくらい変わるのか。

**環境・エネルギー政策課長** LED化によって、電力の使用量が照明の部分については、試算によると66%削減できると見込んでいる。

**望月** 電力の66%を削減できるとのことだが、このLED化によって、温室効果ガスの削減、その対比を教えてください。

**環境・エネルギー政策課長** CO<sub>2</sub>削減量についても試算しているが、今回の第1工期から第4工期まですべての完了による累計の削減量は年間2,092トンを見込んでいる。

**望月** この削減で目標値に対して、どの程度の目標が達成されるのか。

**環境・エネルギー政策課長** 排出事業者である県庁としての目標削減量はあと2万トン余りだ。今回のLED化で2,092トンの削減なので、約1割に当たる。

**望月** 2万トンの約7割を削減できるので、あと残り3割で達成できるということか。

**環境・エネルギー政策課長** 県有施設全体のLED化を進めると5,342トン、年間だと県庁の目標削減量の約3割、27%に当たる。

**望月** 県庁内の施設の中で5,324トンのうち、約3割が今回の1期工区などでLED化されるとのことだが、残り7割の状況を伺う。

**環境・エネルギー政策課長** 県有施設の設置可能な建物、駐車場などには太陽光発電設備を2040年までに原則100%導入を目指すほか、公用車の導入、更新については原則として次世代型の自動車を調達する。また、庁内のOA機器等を計画的に省エネ機器に切り替え、ウェブ会議の活用による公用車の利用抑制、不用な照明設備の消灯、OA機器の小まめな電源オフといった節電励行など、温室効果ガスの排出削減に向けて全庁で取り組む。

さらに、省エネと創エネの取り組みを推進し、さらに不足する分については再生可能エネルギー電力の調達も検討していく。

**望月** 今回のLED化で3割を削減し、残りの7割は庁舎外の駐車場への太陽光発電の設置や公用車を電気自動車等に置き換えていくことで、CO<sub>2</sub>の目標削減を100%達成してほしい。

**環境・エネルギー政策課長** 脱炭素化は県庁のみならず、市町村、事業者、個人の方々、みんなで取り組む必要がある。県庁で率先して模範を示し、みんなで一丸となって削減に努めていく。

**望月** 県庁が率先して、市町村に成果が示せるような施策を取ってほしい。

**環境・エネルギー政策課長** 国でもGX推進法等で、今後10年で150兆円といった大きな予算が流れてくるようだ。これらを県としても取り込めるような施策を考え削減に向けて取り組んでいく。

令和5年9月定例  
土木森林環境委員会  
会議録要旨



河川の伐木<sup>しゅんせつ</sup>と浚渫<sup>しゅんせつ</sup>について

**望月** 近年の列島各地を見ていると、集中豪雨や線状降水帯による河川の氾濫が山梨県でも起こりうると思う。山梨県管轄の河川のしゅんせつ、伐木はどのような計画で進めているのか。

**治水課長** 伐木、浚渫に関するこれまでの取り組み状況と今後の予定だが、県では国の3か年緊急対策予算が措置された平成30年度以降、積極的に予算を確保し、令和4年度末までに県内144河川、延長367キロで河川の伐木、浚渫を実施した。本年度も県内51河川、延長約31キロメートルで伐木、浚渫を進める。

**望月** 国でも3年間予算を計上して、河川の災害、氾濫への対応をするということだが、山梨県としてもそれに沿って順次計画を進め、氾濫が起こらない河川管理をしてほしい。

**治水課長** この取り組みは非常に重要だと認識している。今後も引き続き河川の監視を適正に行い、必要な予算を確保して着実に対策を

実施していく。

**望月** 富士川、笛吹川上流などの各河川の上流で、山梨県ではダム設備がかなり進んでいる。山梨県としては洪水とか線状降水帯のように、一夜にしてあふれる洪水、雨量に対して、ダムの出水、放水にどのように取り組んでいるのか。

**治水課長** ダムは河川計画上、重要な施設だ。最近の取り組みとしては、台風が襲来することが事前に分かる時は、事前にダムの水位を下げ、洪水に対する治水容量を確保するなど、県、国、民間のダムにも協力を得て、国からの連絡体制をもとに備える新しい取り組みも進めている。

**望月** 下流域への事前の報告や通達をぜひお願いしたい。

**治水課長** より一層、今の制度を周知して、しっかり取り組んでいく。